

## 新入職員の紹介②

総合救急診療科(救急)	瀬川 翔
総合救急診療科(救急)	豎 良太
総合救急診療科(集中治療)	田中 宗伸
総合救急診療科(集中治療)	富森 一馬
総合救急診療科(集中治療)	春日 武史
総合救急診療科(総合診療)	田丸 聡子
心臓血管外科	秋吉 慧
整形外科	武 王基
外科	蓮井 英成
泌尿器科	定兼 伊吹
小児科	永関 剛
感染症内科	大西 翼
消化器内科	猪熊 顕之
消化器内科	田村 直樹
呼吸器内科	丸山 総一
循環器内科	大木 初里
循環器内科専攻医	太田 耶瑛
循環器内科専攻医	佐藤 恒
脳神経外科専攻医	内藤 智順
放射線科専攻医	水木 真純
眼科専攻医	平沼 優悟
麻酔科専攻医	馬渡 惟史

内科専攻医	野原 翔太
内科専攻医	折原 史奈
内科専攻医	石川 如文
救急専攻医	長池 秀治
救急専攻医	萩田 健三郎
整形外科専攻医	中島 尚嗣
初期研修医	石井 智大
初期研修医	穀野 夏奈子
初期研修医	田畑 幸大
初期研修医	杉本 真征
初期研修医	吉留 愛
初期研修医	末永 沙織
初期研修医	菅野 滉貴
初期研修医	前田 瑞恵

どうぞよろしく  
お願いいたします。

# きらきらレター

Kirakira-Letter  
令和4年5月

公益社団法人地域医療振興協会 練馬が丘病院 広報紙

第75号

# Start!

## お知らせ

2022年10月

練馬光が丘病院が、  
生まれ変わります。

どうぞよろしくお願いたします。



### あたらしく生まれ変わる 練馬光が丘病院

- 新病院の住所 東京都練馬区光が丘2-5-1
- 構造 地上7階建(免震建築)

457床  
(115床を増床)

診療科拡大

ICU・HCU  
増設

手術室  
増強  
ハイブロッド手術室、  
ロボット新機導入

救急室  
ER800m<sup>2</sup>  
2.5倍に拡大

回復期リハ病棟新設  
+  
リハビリ室は820m<sup>2</sup>へ  
4倍に拡大

血管造影室  
が4倍に拡大

化学療法室  
24倍の  
22床に増床

産婦人科  
19床から30床に  
病床増設

小児病棟  
個室増設

放射線治療  
新設

練馬光が丘病院は「公益社団法人地域医療振興協会」の運営施設です。地域医療振興協会は、地域医療を取り巻くさまざまな問題を解決し、へき地を中心とした地域保健医療の調査研究および地域医学知識の啓発と普及を行うことを目的に1987年5月に設立され、2009年12月1日より公益社団法人として新たにスタートしました。地域医療に対する意欲と実績を持つ医師を中心に、つねに地域保健医療の確保と質の向上など住民福祉の増進を図り、地域間での医療の不均衡の解消、地域の振興を推進しています。

発行元：練馬が丘病院

〒179-0072 東京都練馬区光が丘2-11-1  
TEL:03-3979-3611(代)  
<http://hikarigaoka.jadecom.or.jp>

## もくじ

新入職員の紹介①	2・3	お知らせ	4
新入職員の紹介②	4		

## 新入職員の紹介①



常勤顧問 産婦人科

### 高木 健次郎 (タカギ ケンジロウ)

令和4年4月1日から産婦人科に加わりました。本年3月までは、自治医科大学附属さいたま医療センターの周産期母子医療センター長として約10年勤務致しました。診療は主に産科で、対象となる妊婦さんは合併症、持病などがあるハイリスクの方が主で、また早産、未熟児の分娩など、母体救急搬送を受け入れる側として長年働いて参りました。私は、15年ほど前には、日本大学医学部産婦人科に所属し、当時の練馬光が丘病院に勤務しておりました。その様な経緯から、懐かしい場所に戻って来られたと感じています。地元、練馬区民の皆様の、お役に立てれば幸いと思いつつ診療にあたりたいと存じます。



脳神経外科 部長

### 宮本 倫行 (ミヤモト ミチユキ)

4月1日より赴任させていただきました宮本と申します。小生の一番得意な治療はカテーテル治療で、脳梗塞の治療から動脈瘤に対するフローダイバーター治療という特殊な治療まで行っております。また、元々は手術志望だったために、クリッピングやバイパス、CEAや脳腫瘍、脊髄手術まで担っておりまして、幅広い分野でお役に立ちたいと思っております。よろしくお願い致します。



歯科口腔外科 部長

### 小佐野 仁志 (オサノ ヒトシ)

本年4月1日付で練馬光が丘病院に入職させていただきました。

新たに、歯科口腔外科を立ち上げるという重責を担っての勤務となります。口腔はその機能を維持増進することで健康に寄与する臓器組織です。また、口腔は皮膚、腸管とともに常在菌が多い臓器です。免疫機能が低下しますと、口腔細菌の感染による誤嚥性肺炎や菌血症、敗血症のリスクが高まります。

口腔衛生状態を良好に保つ行為は、感染の予防のみならず、嚥下機能や咀嚼機能の維持増進につながります。こういった観点から近年、厚生労働省も周術期口腔管理に力をいれ診療報酬上も手厚いサポートがなされています。当院でも全身麻酔下での手術、悪性腫瘍の化学療法、骨吸収抑制薬などの投与を予定されている患者さまの周術期口腔管理に力を入れてまいります。

その他では、口腔癌、口腔心身症、口腔細菌感染症、外傷などの診断治療を専門的に行ってまいりました。新病院開院までは、外科処置は困難ですが、周術期口腔管理や口腔心身症の臨床に力を入れてまいりたいと思います。ご紹介のほどよろしくお願いいたします。



総合救急診療科 総合診療部門 科長

### 原田 拓 (ハラダ タク)

令和4年4月より総合診療科で勤務させていただき原田 拓 (はらだ たく)と申します。これまでは大学病院で臨床の傍ら、総合診療医の育成や指導にあたってきました。今後は病院総合医として研鑽を積んでいきたいと思っておりご縁がありましてこちらで働かせていただくことになりました。

プライベートでは二児の父親をしており、二人目が最近生まれたので育児に奮闘しております。それに加えて、5歳の長男が肩車が好きらしく、よくせがまれるためか肩こりに困っています。自分なりにベストをつくりながら、より地域に貢献できるように精進を重ねたいと思っております。いち早く戦力となれるよう尽力いたしますので、皆様、御指導御鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



病理診断科 科長

### 小林 大輔 (コバヤシ ダイスケ)

4月1日より病理診断科に入職しました。平成11年に東京医科歯科大学を卒業後、これまで大学で勤務しており、練馬光が丘病院には10年前に経営が移った時期に2年と、また昨年より2年間は非常勤として週1回伺っていました。今年度からは常勤として当院の病理診断全般に携わっていきます。

病理医は直接患者さまにお会いすることはありませんが、結果によって治療方針を決定する大事な役割を担っています。正しい病理診断を目指すことはもちろんですが、それを担当の先生に返して終わりではなく、その内容が正しく伝わるのが最も大事と考えています。したがって、確認したいことや誤解なく伝えたいことがあれば直接臨床の先生と連絡をとりますし、報告書の記載が不十分であったり、臨床所見と合致しないことがあったときには、気軽に聞いてもらえる関係性を築いていくことで、病理診断の一層の質の向上に努めていきたいと思っております。